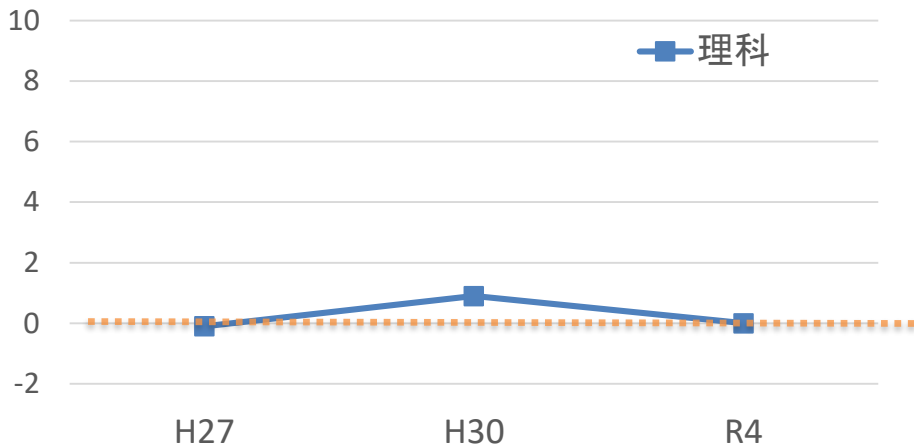


結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

2 領域別の結果

領域	県	全国平均
エネルギーを柱とする領域	41.8	41.9
粒子を柱とする領域	52.5	50.9
生命を柱とする領域	56.7	57.9
地球を柱とする領域	44.5	44.3

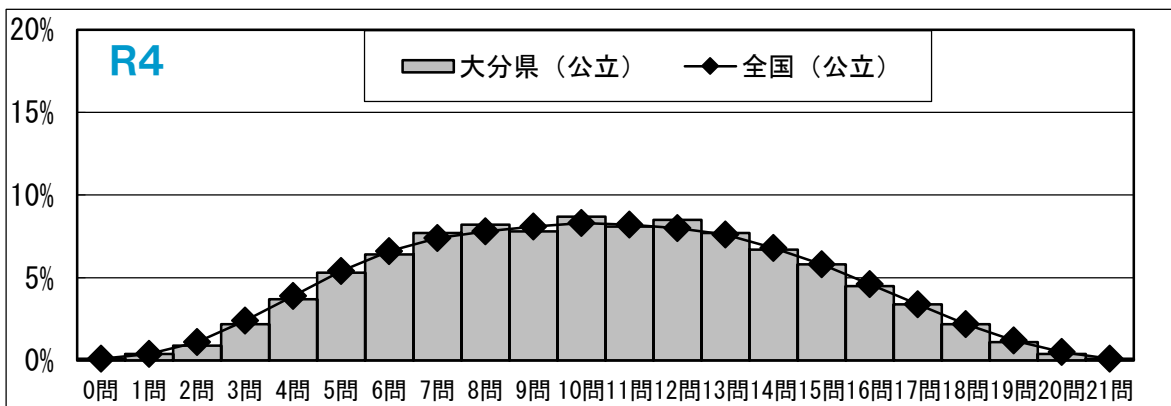
○「粒子を柱とする」「地球を柱とする」の領域で、全国平均を上回る。
 ▲「エネルギーを柱とする」「生命を柱とする」の領域で、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

領域	県	全国平均
知識・技能	47.2	46.1
思考・判断・表現	50.6	51.0

○「知識・技能」の観点では全国平均を上回る。
 ▲「思考・判断・表現」の観点では、全国平均を下回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
 ○正答数が全国平均以上(10問以上)の生徒は57.2%であり、全国値56.7%を上回る。

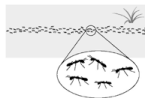
課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問8 (1) 【平均正答率 大分県52.8% 全国55.2%】

アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。

8 『ファール昆虫記』を読んで、アリの行列のつくり方に興味をもち、科学的に探究しました。
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



レポートの一部

【課題1】
アリは、視覚による情報をもとに行列をつくるか。

【実験1】
① 図のように行列を覆い、10分間まわりの景色を見えなくする。

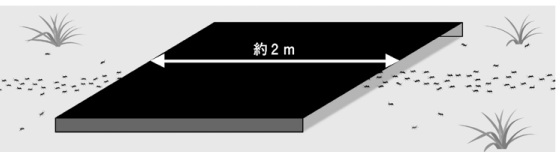


図 覆いをしたようす

- ② 覆う前後の行列のようすを写真に撮り、比較する。
- ③ ①と②の操作を別のアリの行列で3回繰り返す。

【結果1】

	6月9日(13時から15時) 場所: 中央公園		
覆いをする前			
覆いをした後			
	1回目	2回目	3回目

【考察1】
この実験の結果からは、アリの行列のようすは P ので、 Q と考えられる。

(1) P Q に当てはまる適切な言葉をそれぞれ書きなさい。

【正答例】

- P : 変化しない
- Q : 視覚による情報をもとに行列をつくらぬ

【誤答例】

- P : 変化しない
- Q : 視覚の情報をもとに行列をつくらぬ

※行列が変化しないことは読み取れているが、課題に正対したQの部分が不十分であり、実験の結果を分析して解釈することができていない。
(大分県26.7% 全国24.6%)

指導の改善

【学習指導のポイント】

実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるようにする

- 観察、実験の結果を分析して解釈する上で、課題で明らかにしようとしていることは何かを意識して考察することが大切である。
- 指導に当たっては、本問のように、アリの行列のつくり方に問題を見いだして設定した課題と考察が正対しているか、考察の根拠は明確かなどの検討を促す学習場面を設定することが考えられる。
- その際、具体例を示しながら根拠を基に考察を繰り返すことで、課題に正対した考察を行うことができるようになることが期待できる。

学習場面の例

<具体例を示し考察する学習活動を繰り返す>

課題に正対した考察を行うために、「根拠となるもの」を書く部分と課題を意識して「考えたことや判断したこと」を書く部分を空欄にした具体例を示し、両者を区別しながら記述する学習活動を行うことが考えられる。

課題に正対した考察を行うことができるようになるまでは、全ての領域で繰り返し、取り組むことが大切である。

